

施工説明書

キッチン用タッチレス水栓
(浄水器ビルトイン型)

JF-NB466SX型

1. 施工の前に

安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に動作することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

警告	「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」
注意	「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物理的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」
!	「注意しなさい！」 (上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)
禁止	「してはいけません！」(一般的な禁止記号です。)
分解禁止	「分解してはいけません！」
水場禁止	「バスルームやシャワールームなどの水場で使用してはいけません！」
指示	「指示通りにしなさい！」(一般的な行動禁止記号です。)

△ 警 告

修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。 ※発火、感電したり、異常動作してケガをすることがあります。	
給水圧力は必ず給湯圧力以上にしてください。 ※正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。	
水につけたり、水をかけないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因になります。	
バスルーム等の水かかる所や、表面上に水滴を生じるような温氣の多い場所では使用しないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因になります。	
電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、重い物を乗せたり、挿み込んだりしないでください。 ※電源コードが破損し、発火、ショート、感電の原因になります。	
電源プラグを濡れた手で触れないでください。 ※感電の原因になります。	
電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントへの差し込みがゆるいときは使用しないでください。 ※発火、ショート、感電の原因になります。	
交流100V (50/60Hz) 以外では使用しないでください。 ※発火、ショート、感電の原因になります。	
直流電流や異電圧の電源での使用は避けてください。 ※火災の原因になります。	
電源プラグに付いたホコリは、取り除いてください。 ※電源プラグにホコリがたまると、湿度などで絶縁不良となり、火災の原因になります。 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。	
電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。 ※発火、ショート、感電の原因になります。	
水道水以外は使用しないでください。 ※商品の内部腐食により漏水、発火、ショート、感電の原因になります。	
湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。	
ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押さえた配管設備にしてください。 ※他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇し、ヤケドをする恐れがあります。	
給湯機器の温度設定は85°C以上で使用しないでください。 ※水栓が破損し、ヤケドや家財を濡らす恐れがあります。	
フレキホースの差し直しやストレーナーの掃除をする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。 ※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。	
トイレ用洗剤、住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、トイレ用ウェットティッシュ、クレンザー、クリーナーを使用しないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因になります。	
衝撃を与えること、もたれかかたりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因になります。	
お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。 ※凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。	

△ 注意

衝撃を与えること、もたれかかたりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因になります。	
お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。 ※凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。	

本製品の仕様と条件

電 源	AC 100V 50/60Hz	消 費 電 力	常時：0.8W 作動時：1.6W
給湯器設定温度	85°C以下	使 用 可 能 水 質	水道水および飲用可能な井戸水（※1）
使 用 環 境 温 度	1~40°C	給 水 取 暖 接 続	G 1/2
压 力 条 件	0.06MPa(流動圧)~0.75MPa(静水圧) 給水圧力と給湯圧力 （※2）		
感 知 距 離	約40mm(グレーカード：80mm角)	感 知 エ リ ア 幅	約φ5mm
電源コード長さ	1.8m		

※1：飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。

※2：給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

ガス給湯器(比例式制御式：16号相当)と組み合わせる場合の給水圧力

最 小 必 要 壓 力	A + 0.09MPa(流動圧)	※ Aはガス給湯器の最低作動圧力です。
最 高 壓 力	0.75MPa(静水圧)	

測定条件は次の通りです。

- レバーハンドルは全開。
- 給湯温度5°C、吐出温度42°C(ガス給湯器との組み合わせが最も悪い冬季を想定)。
- 給水圧力はガス給湯器直前における流動時の圧力です。
- ガス給湯器の設定温度は最高温度です。

貯湯式温水器と組み合わせる場合の給水圧力

最 小 必 要 壓 力	0.07MPa(流動圧)
最 高 壓 力	0.75MPa(静水圧)

- 給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になります。

その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20~0.34MPa)に減圧してください。
- 給湯器に蒸気は使用できません。
- 給湯温度は使用する最高温度より約10°C高く設定してください。
- 不意の出湯によるヤケド防止のため、給湯器の設定温度は60°C以下をおすすめします。

施工前のご注意

取付けに必要な工具

- 取付けにはプラスドライバー、スパナ(対辺8)、モンキーレンチ2本、プライヤー、マイナスドライバーが必要です。

止水栓を設けてください。

- 取付け後の流量調節や手動弁操作・保守点検のために、必ず止水栓(別売)を設けてください。
- 使い勝手や性能発揮のために、流量調節をしてください。特に水圧が高い場合など、流量調節がされないと漏水・破損の恐れがあります。

隠蔽部に施工する場合は点検口を設けてください。

- 取付後の手動弁操作の施工のために、必ず点検口を設けてください。

補強材を使う場合

- カウンター裏面に補強材を使う場合は、木製のボードを使用してください。珪酸カルシウム板は使わないでください。本体が正しく固定できないことがあります。やむをえない事情で珪酸カルシウム板を使用する場合は、別売りのA-3811を使用して取り付けてください。

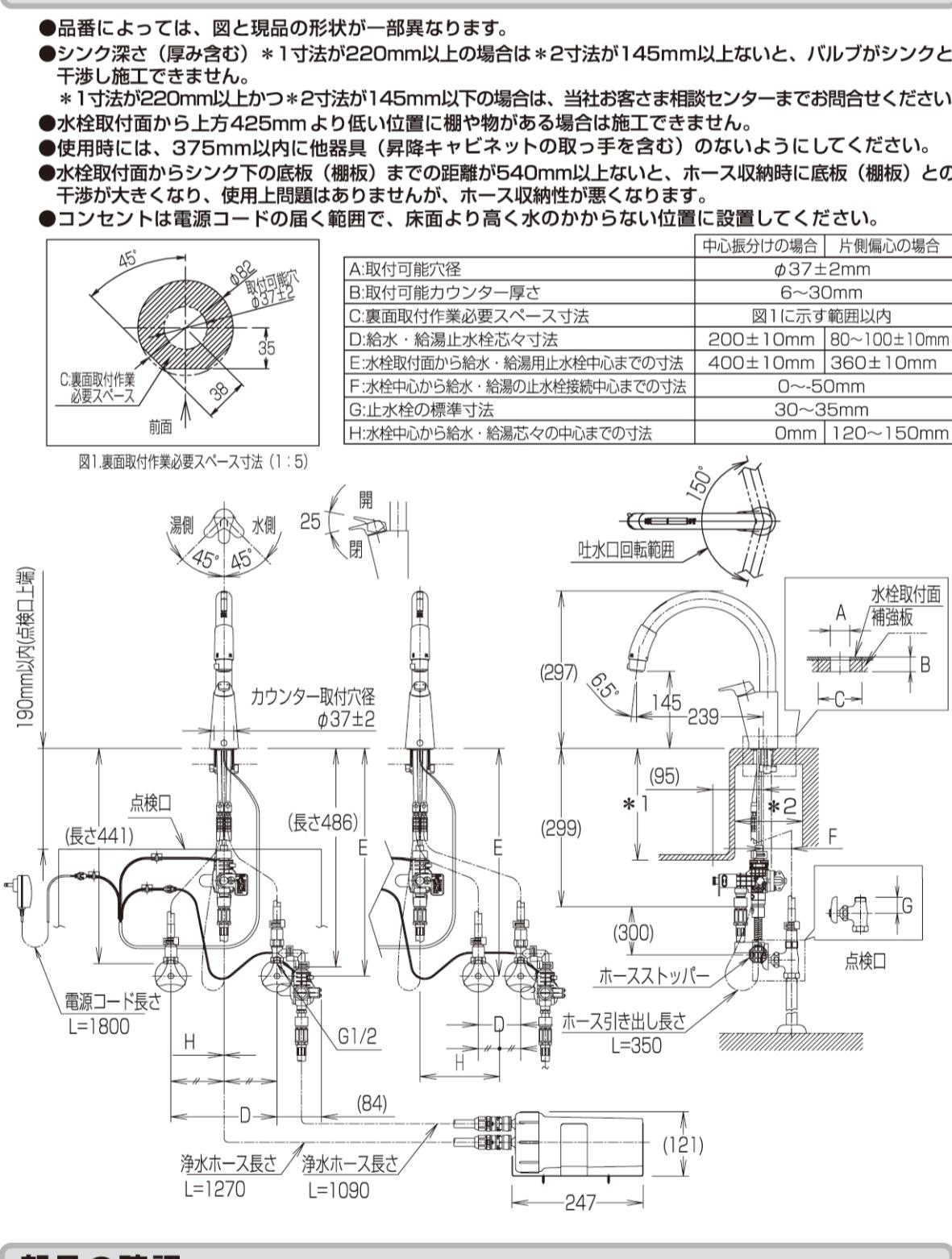
配管・配線について

- 給水は水道水に接続してください。
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
- 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保護材を巻いてください。
- ACアダプターは必ず指定のものをご使用ください。
- 万が一の危険防止の為、電源の一次側に1か所漏電遮断器を設置してください。
- 電源線はφ1.6mm又はφ2.0mm以上のものをご使用ください。（現場手配）
- 電気工事は必ず電気工事店に依頼してください。
- コンセントは1口タイプをご使用ください。
- コンセントはACアダプターの定期的なお手入れが行えるような位置に設けてください。
※隠蔽部には設けないでください。
- 水道工事と電気工事は十分工程を打ち合わせのうえ行ってください。
- 必ず配管中の異物を完全に洗い流してください。

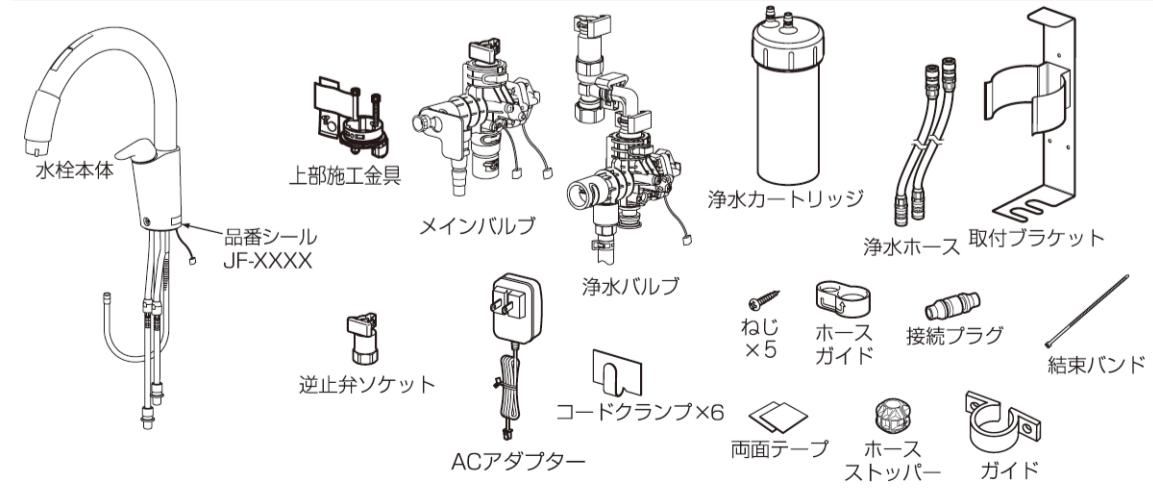
その他の注意点

- 商品の表面には、直接工具を掛けないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
- センサーの窓を傷つけないように十分にご注意ください。
- インバーター照明や赤外線を用いたほかの機器により誤作動する場合があります。
- 直射日光が当たる場所でのご使用は誤作動の原因になります。

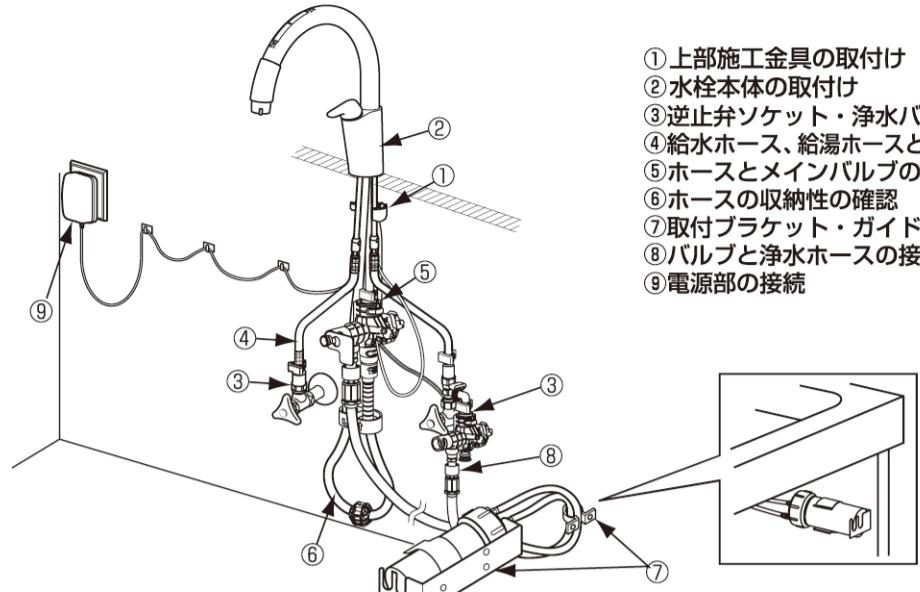
施工完了図



部品の確認



2. 施工手順

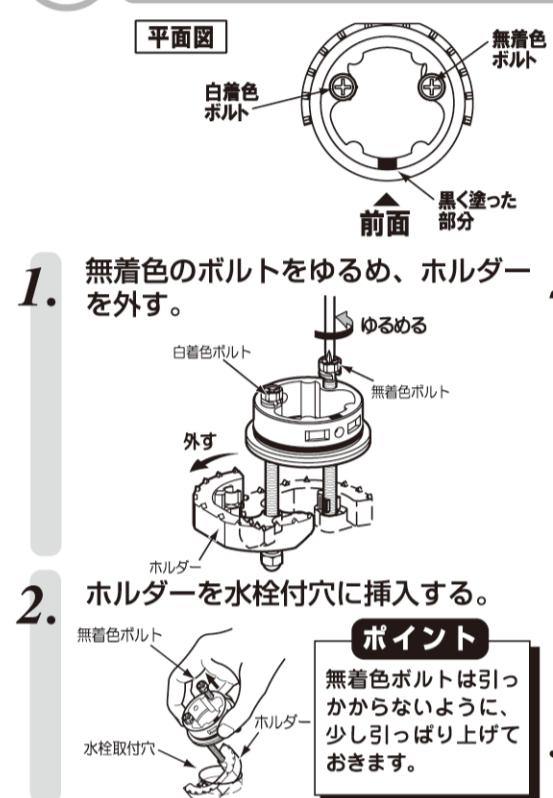


- ①上部施工金具の取付け
- ②水栓本体の取付け
- ③逆止弁ソケット・浄水バルブと止水栓の接続
- ④給水ホース、給湯ホースと逆止弁ソケットの接続
- ⑤ホースとメインバルブの接続
- ⑥ホースの収納性の確認
- ⑦取付ブラケット・ガイドの取付け
- ⑧バルブと浄水ホースの接続
- ⑨電源部の接続

3. 施工方法

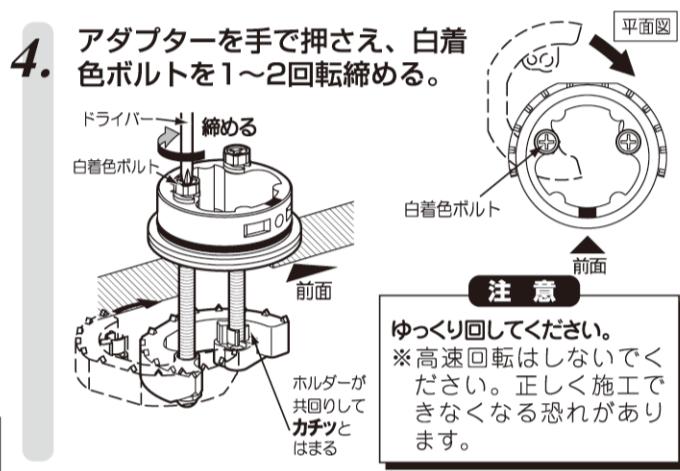
以下の手順の通り、正しく取り付けてください。

1 上部施工金具の取付け



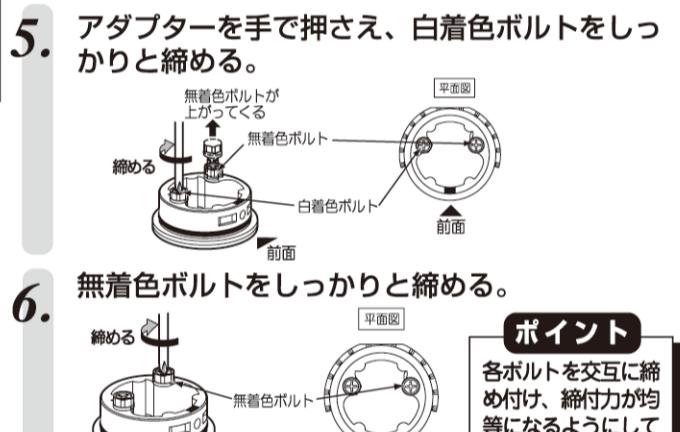
注意
上部施工金具は向きに注意して、正しく取り付けてください。
※正しく取り付けないと水栓本体の固定強度が低下するなど、不具合の原因になります。

1. 無着色のボルトをゆるめ、ホルダーを外す。



注意
ゆっくり回してください。
※高速回転はしないでください。正しく施工できなくなる恐れがあります。

2. ホルダーを水栓付穴に挿入する。



ポイント
無着色ボルトは引っかからないように、少し引っぱり上げておきます。

3. アダプターの黒く塗った部分が前方を向くように位置決めをする。



ポイント
各ボルトを交互に締め付け、締付力が均等になるようにしてください。

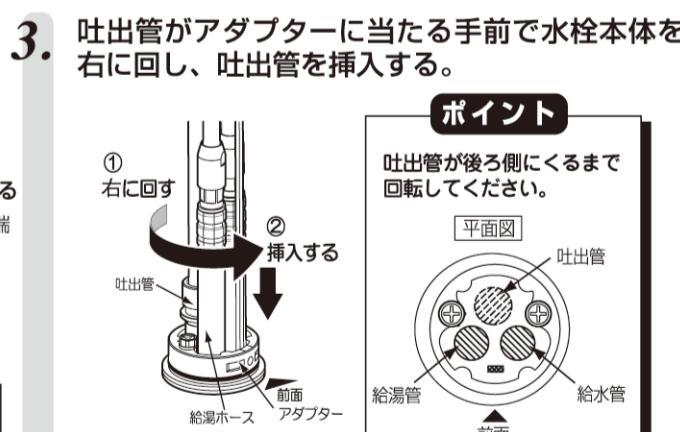


注意
締め付けすぎないでください。

確認
アダプターのぐらつきがないこと。

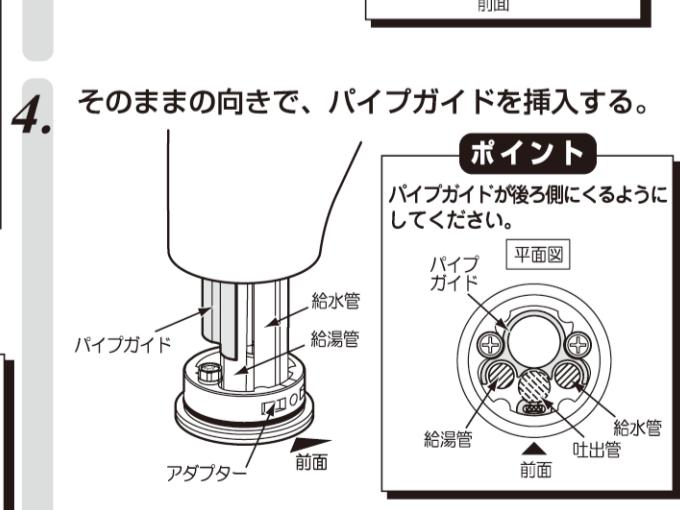
2 水栓本体の取付け

1. ホースの先端が固定軸の中にかかるまでハンドシャワーを引き出す。



注意
●傷や破損の原因になります。
●落とす注意
●先端のキャップはそれを抜取る直前まで外さないでください。
※リングに傷がついたりゴミが詰まることで漏水の原因となります。

2. センサーコードを先にアダプターに挿入し、続いて給水・給湯ホースを挿入する。



ポイント
給水・給湯ホースを下図のように横並びにして挿入してください。

平面図

給水ホース
給湯ホース
吐出管
アダプター

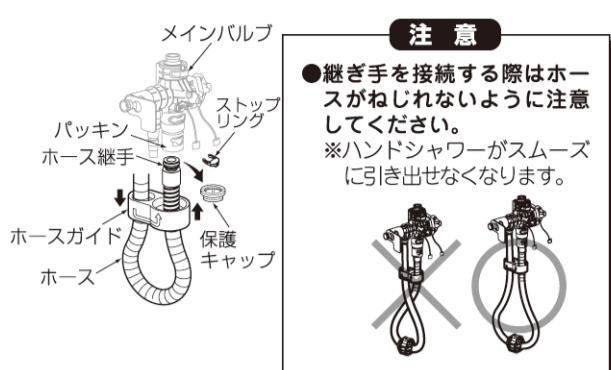
前面

アダプター

前面</

5 ホースとメインバルブの接続 つづき

3. ホースをホースガイドの矢印のとおりに通し、ソケットを手で持ち、ホースをメインバルブのソケット部に差込み、ストップリングで固定する。



ポイント

● 繰り手を接続する際はホースがねじれないように注意してください。
※ハンドシャワーがスムーズに引き出せなくなります。

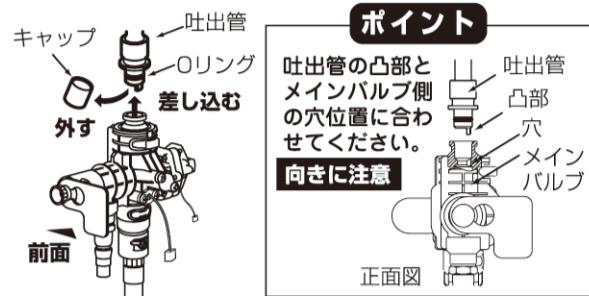
● カチッと音がするまで差してください。

● ストップリングがソケットからはみ出でないことを確認してください。



注意

4. メインバルブを吐出管に接続する。



ポイント

向きに注意

● Oリングに傷をつけたりゴミがまらないよう注意してください。
※漏水の原因となります。

● バルブを吐出管に接続する際、ホースがねじれたり、止水栓をまといで接続しないでください。

※ホースが破損し、漏水の原因となります。

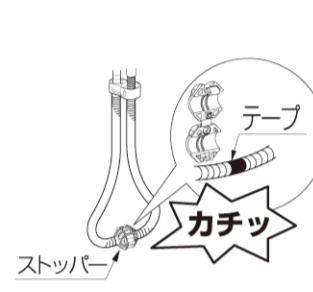
5. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。



注意

● 固定リングをはめ損ねないよう、必ずしっかりとはめ込んでください。
※外れると漏水の原因となります。

6. ストップバーをホースのテープ部に取り付ける。



ポイント

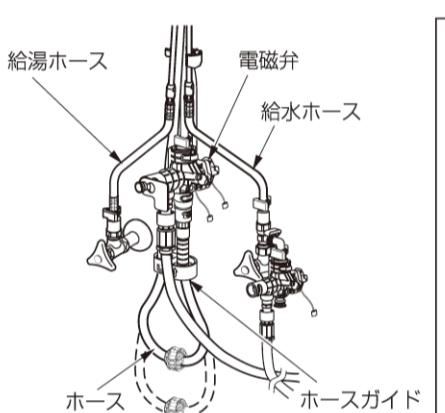
● ホース収納がスムーズになるよう、吐出管を右に軽く曲げて、ホースがまっすぐ垂れ下がるようにしてください。

● 配管スペースがある場合、吐出管を手前に曲げてください。

● 右側面から見た図です。

6 ホース収納性の確認

1. ホースの先端がパイプガイドの中にかくれるまで、ハンドシャワーを引き出す。



ポイント

● ホース収納がスムーズになるよう、吐出管を右に軽く曲げて、ホースがまっすぐ垂れ下がるようにしてください。

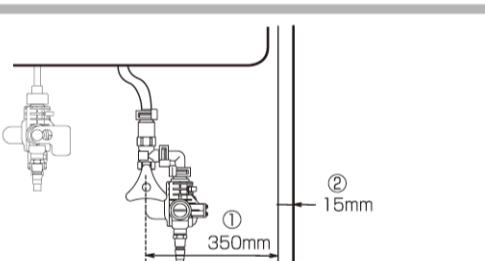
● 配管スペースがある場合、吐出管を手前に曲げてください。

● 右側面から見た図です。

7 取り付けブラケット・ガイドの取付け

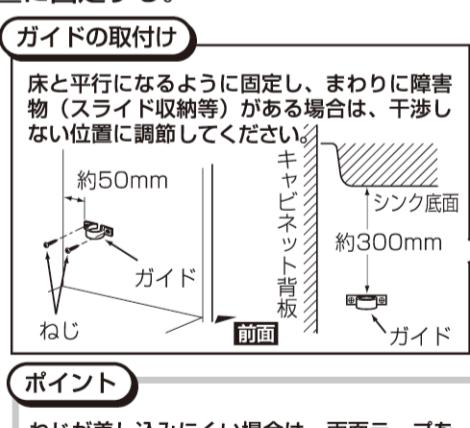
キャビネット内右側面の条件

- ①水側止水栓から350mm以内である
- ②板厚が15mm以上である
- ③右側面に扉や引き出し等の干渉物がない



条件にあてはまる場合

1. ねじで取付ブラケットとガイドを指定の位置に固定する。



ポイント

ねじが差し込みにくい場合は、両面テープ一枚を使用し、仮固定した後、ねじを固定してください。

取付ブラケットの取付け

切りかきがある方を前面に向けて固定してください。

シンク底面

約50mm

取付ブラケット

前面

*1: キャビネット内右側面が水側止水栓から300mm未満の場合は約30mm、300mm以上の場合は約100mm

切れきはカートリッジ交換の際、浄水ホースを引っ掛けておくためのものです。

取付ブラケットの切れき

*1: キャビネット内右側面が水側止水栓から300mm未満の場合は約30mm、300mm以上の場合は約100mm

切れきはカートリッジ交換の際、浄

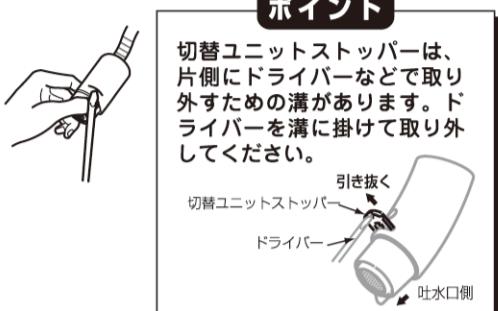
② ストレーナーの掃除

注意

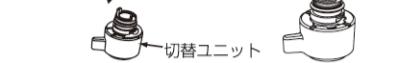
作動確認後、ストレーナーを必ず掃除してください。
※ストレーナーが詰まるると流量が少くなり、十分な機能が発揮されません。

切替ユニットのストレーナーの掃除

- ハンドシャワーを引き出す。
- 裏側にある切替ユニットストッパーをマイナスドライバーなどで引き抜く。



- 切替ユニットを外して、ストレーナーに付いたゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。外す



- 切替ユニットを取り付ける。

ポイント

取り付けるときは、位置合わせの向きを合わせるように差し込んでください。

注意

- 切替ユニットストッパーを取り付けるときは、溝が吐水口側になるようにしてください。
- 取り付け後は切替ユニットが抜けてこないことを確認してください。

ストレーナーの掃除(バルブ共通)

ストレーナーは、メインバルブと給水バルブに入っています。

- 止水栓を閉じる。
(右いっぱいに回す) 右いっぱいに回す
- バルブの抜け止めカバーと固定リングを外し、吐出管からバルブを外す。
※洗面器などで排出される水を受けてください。
- ストップリングをマイナスドライバーで外し、アダプターを外す。
- ストレーナーをマイナスドライバーで外し、ゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。

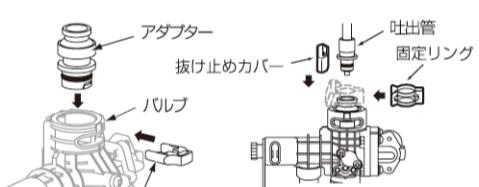


- ストレーナーをアダプターに取り付ける。

ポイント

アダプターの溝にストレーナーをしっかりと差し込んでください。

- アダプターをバルブに取り付け、ストップリングを取り付け、吐出管に接続する。



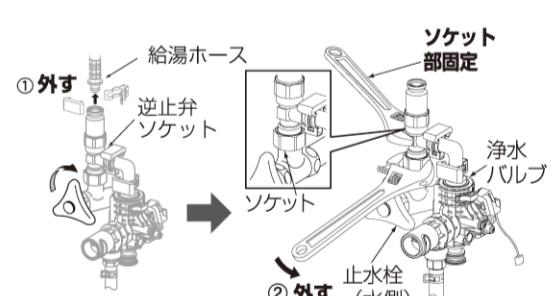
注意

- アダプターを取り付ける際、および吐出管に接続する際、Oリングに傷つけたり、ゴミが詰まらないように注意してください。
※漏水の原因になります。

ストレーナー付パッキンの掃除(給水バルブのみ)

ストレーナーは、メインバルブと給水バルブに入っています。

- 止水栓を閉じる。
(右いっぱいに回す)
- 給水・給湯ホースを外してから給水バルブを外す。
- ストレーナー付パッキンのゴミ等を歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。
- 給水バルブを止水栓に固定する。



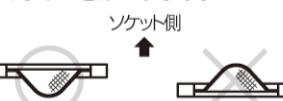
- ストレーナー付パッキンのゴミ等を歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。



- 給水バルブを止水栓に固定する。

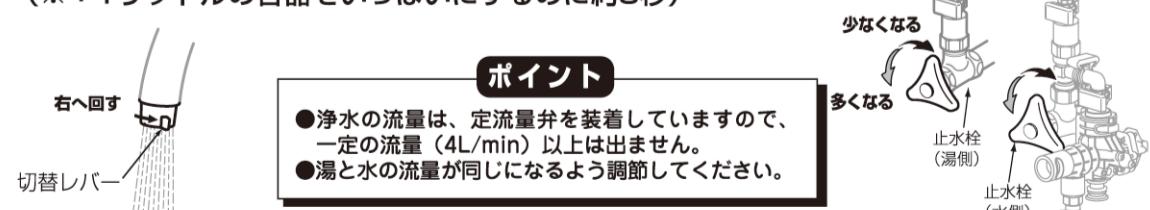
注意

- ストレーナー付パッキンの向きに注意してください。
※正しく取り付けられない場合、ゴミが詰まりやすくなり、と流量が少なくなることがあります。



③ 流量の調節

レバーハンドルを全開にしたとき、水側または湯側のスポット微細シャワーの流量が8L/min(※)を越える場合は、止水栓で流量調節をしてください。
(※: 1リットルの容器をいっぱいにするのに約8秒)

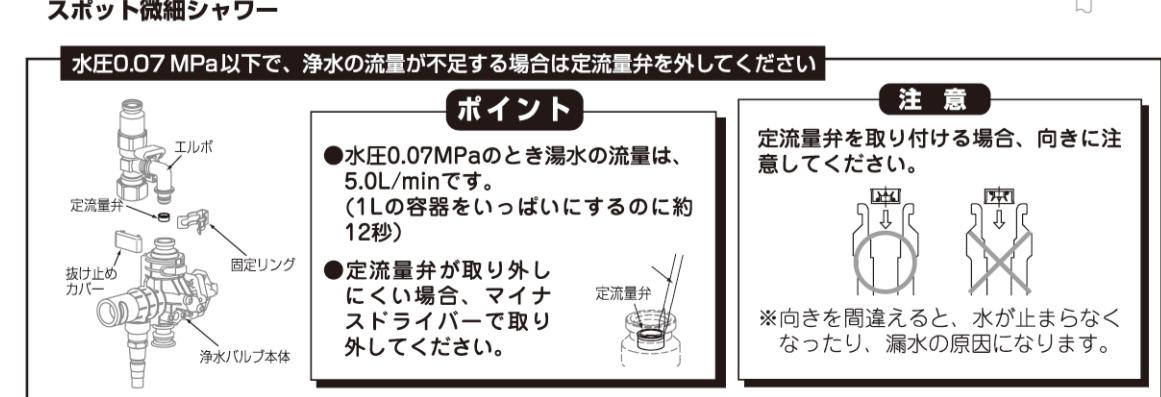
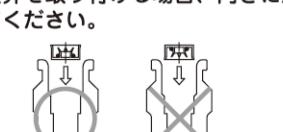


ポイント

- 浄水の流量は、定流量弁を装着していますので、一定の流量(4L/min)以上は出ません。
- 湯と水の流量が同じになるよう調節してください。

注意

- 定流量弁を取り付ける場合、向きに注意してください。



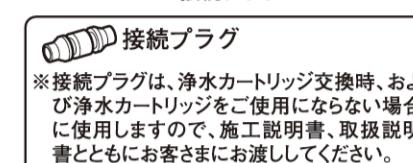
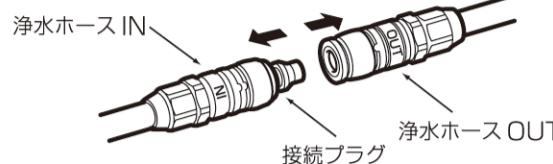
③ お客様が施工後すぐに使用しない場合

お客様が施工後すぐに使用しない場合は、ACアダプターを抜くか、もしくはブレーカーを落とす。

※浄水カートリッジは取り付けずに、そのままお客様にお渡してください。

④ お客様が施工後すぐに使用する場合

- 浄水ホースを接続プラグから外す。

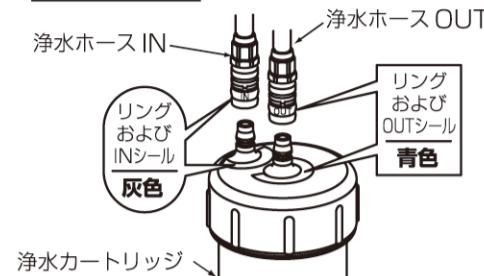


※接続プラグは、浄水カートリッジ交換時、および浄水カートリッジをご使用にならない場合に使用しますので、施工説明書、取扱説明書とともにお客様にお渡してください。

- 浄水カートリッジのプラグ先端の保護キャップを外す。



- 浄水カートリッジに貼ってあるシールの色と浄水ホースのワンタッチジョイントのリングの色を合わせて接続する。



※接続プラグは、浄水カートリッジ交換時、および浄水カートリッジをご使用にならない場合に使用しますので、施工説明書、取扱説明書とともにお客様にお渡してください。

- 浄水カートリッジを取付ブラケットに固定する。

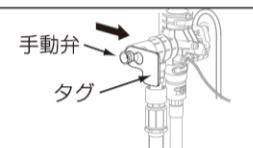


※浄水ホースが折れ曲がったり、ねじれないように注意してください。

5. 引渡前の確認

注意

電磁弁部の手動弁を左いっぱいに回した状態で、タグをしっかりと差し込んでください。
※タグがしっかりと差し込まれないと手動弁が回り、水が止まらなくなる可能性があります。



お客様に引き渡す前にもう一度通水し、次のような現象がないか確認してください。

現象	点検内容	点検箇所	処置	参照項目
吐水しない	止水栓は開いているか?	—	止水栓を開く。	施工後の調整「流量の調節」
	コンセントに電気がきていない または停電中ではないか?	J	ブレーカーを確認する。 ※停電の場合、手動弁を開く(右いっぱいに回す)と止水します。停電が解除されたら手動弁を閉じて(左いっぱいに回す)ください。	取扱説明書「停電および故障時の応急処置」
	ACアダプターがコンセントに差し込まれているか?	N	ACアダプターをコンセントに差し込む。	施工方法「電源部の接続」
	センサーの表面が汚れていないか? コネクターが外れていないか? 断熱材ではないか? 逆止弁が壊れていないか?(配管途中に大きな抵抗はないか?)	E M — K	汚れをふきとる。 ※1 コネクターを接続する。 回復するまで待つ。 逆止弁を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
湯・水が吐水しない	レバーハンドルは開いているか?	B	レバーハンドルを開く。	施工前の前に「本製品の仕様と条件」
	圧力は十分か?	—	圧力条件を確認する。	施工後の調整「流量の調節」
	止水栓は十分開いているか?	—	止水栓を開く。	施工後の調整「流量の調節」
	ストレーナーに、ゴミ詰まりはないか?	F・H・I	ゴミ等を水で洗い流す。	施工後の調整「ストレーナーの掃除」
湯・水の流量が少ない	配管途中に大きな抵抗はないか? レバーハンドルを絞りすぎていないか?	—	抵抗がある場合は障害物を取り除く。	施工前の前に「本製品の仕様と条件」
止水しない	レバーハンドルを開いているか?	B	レバーハンドルを開く。	施工前の前に「本製品の仕様と条件」
	圧力は十分か?	—	圧力条件を確認する。	施工後の調整「流量の調節」
	止水栓を開いていますか?	—	止水栓を開く。	施工前の前に「本製品の仕様と条件」
	ストレーナーに、ゴミ詰まりはないか?	F・H・I	ゴミ等を水で洗い流す。	施工後の調整「ストレーナーの掃除」
	逆止弁は正常か?(ゴミ、砂かみはないか?・Oリングにキズはないか?)	K	キズがあれば部品を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
希望の温度が得られない	圧力は十分か?	—	圧力条件を確認する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	流量調節はよいか?	—	適正流量に調節する。	施工後の調整「流量の調節」
	ストレーナーに、ゴミ詰まりはないか?	F・H・I	ゴミ等を水で洗い流す。	施工後の調整「ストレーナーの掃除」
	逆止弁は正常か?(ゴミ、砂かみはないか?・Oリングにキズはないか?)	—	逆止弁を交換する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	逆止弁は正常か?(ゴミ、砂かみはないか?・Oリングにキズはないか?)	—	逆止弁を交換する。	施工前の前に「本製品の仕様と条件」
水栓本体がガタつく	水栓本体がガタつく 逆止弁がガタつく 逆止弁は正常か?	G	ナットをしっかりと締める。	施工方法「ホース収納の確認」
ゆるみはないか?	ゆるみはないか?	A	ねじをしっかりと締める。	施工方法「ホース収納の確認」
	センサーの表面に障害物はないか?	E	障害物を取り除く。	施工前に「施工完了図」
	センサーの表面が汚れていないか?	E	汚れをふきとる。 ※1	施工前の調整「作動確認」
湯・水が止まらない	手動弁が開いていますか?	J	手動弁を開じる。(左いっぱいに回す)	施工前の前に「本製品の仕様と条件」
	逆止弁は正常か?	K	ゴミ等を水で洗い流す。	施工前の調整「流量の調節」
	ストレーナーに、ゴミ詰まりはないか?	F・H・I	キズがあれば部品を交換する。	施工前の調整「ストレーナーの掃除」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「流量の調節」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「ストレーナーの掃除」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「流量の調節」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「ストレーナーの掃除」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「流量の調節」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「ストレーナーの掃除」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「流量の調節」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「ストレーナーの掃除」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「流量の調節」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「ストレーナーの掃除」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「流量の調節」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「ストレーナーの掃除」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「流量の調節」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「ストレーナーの掃除」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「流量の調節」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「ストレーナーの掃除」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「流量の調節」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「ストレーナーの掃除」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「流量の調節」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「ストレーナーの掃除」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「流量の調節」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「ストレーナーの掃除」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「流量の調節」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前の調整「ストレーナーの掃除」
	逆止弁は正常か?	—	逆止弁を交換する。	施工前に「本製品の仕様と条件」</